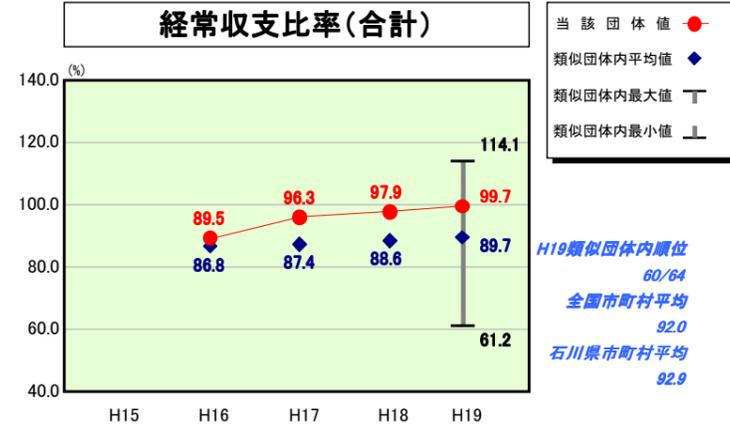


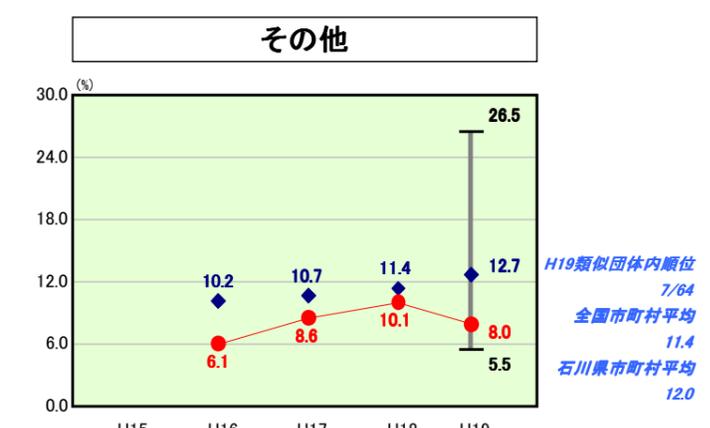
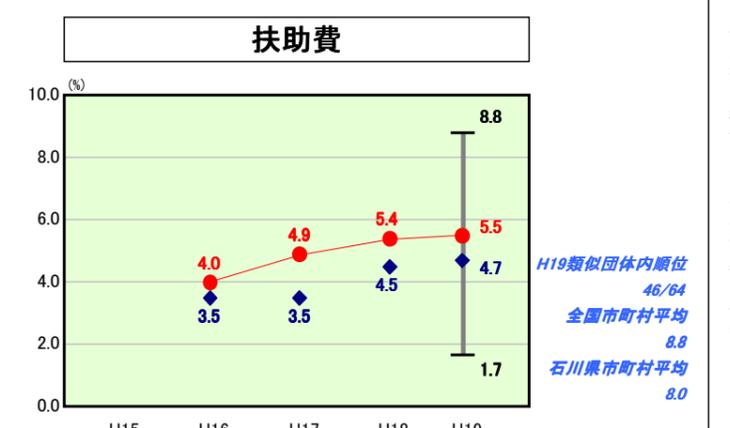
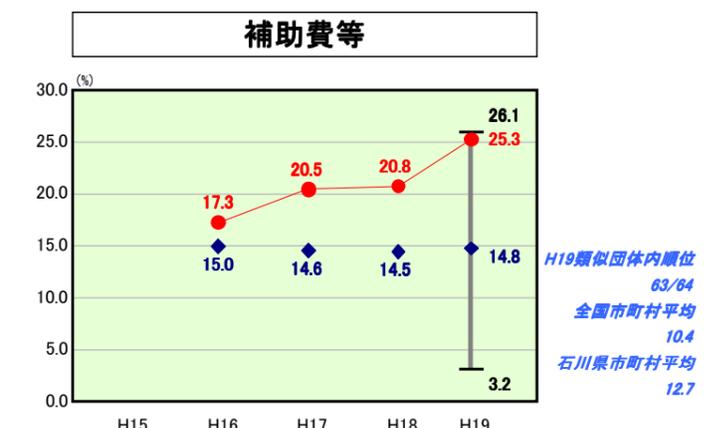
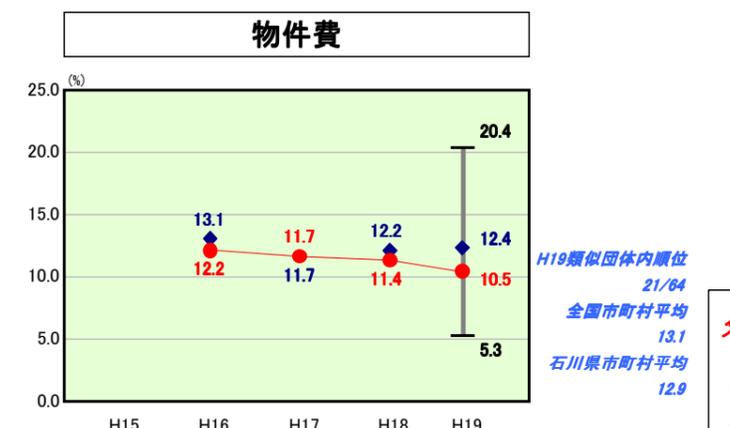
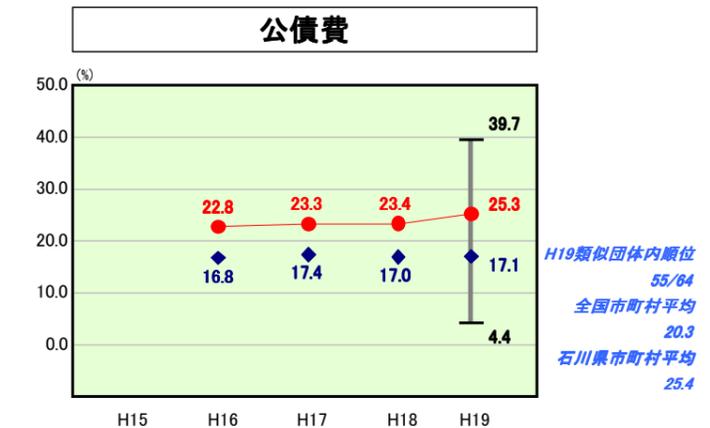
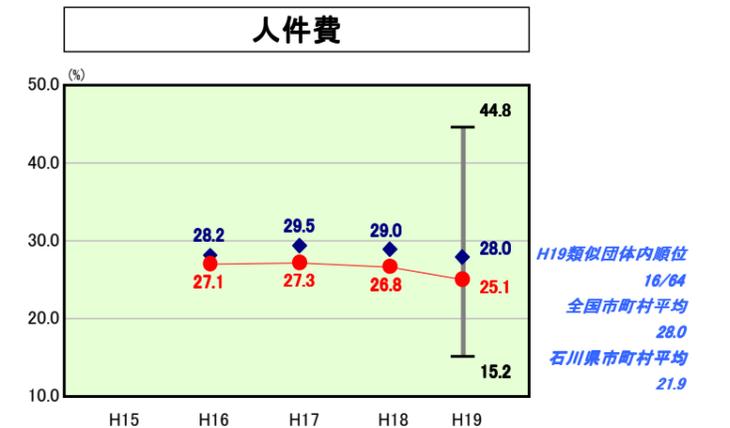
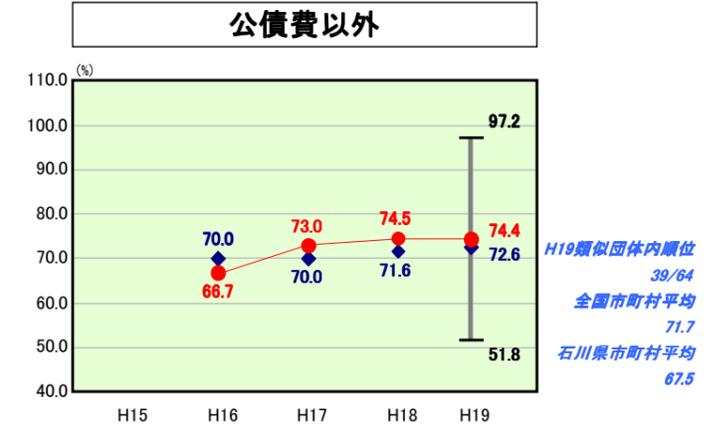
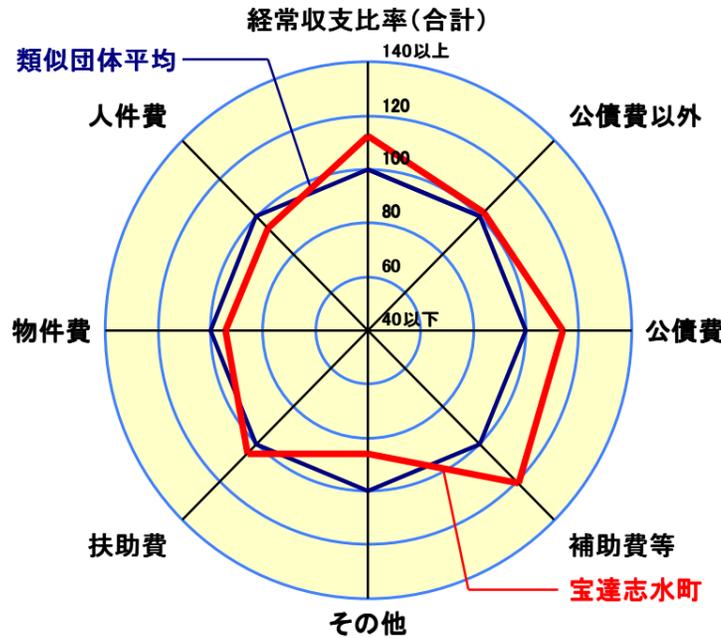
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

石川県 宝達志水町

経常収支比率の分析



| | |
|------|------------------------|
| 人口 | 15,479人(H20.3.31現在) |
| 面積 | 111.68 km ² |
| 歳入総額 | 7,361,828千円 |
| 歳出総額 | 7,265,533千円 |
| 実質収支 | 75,708千円 |



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費：人件費に係る経常収支比率が低くなっているのは、ラスパレス指数が最低水準にあるためである。今後も退職者不補充による職員数削減など行財政改革の取組を通じて人件費の削減に努める。

物件費：物件費に係る経常収支比率が低くなっているのは、行財政改革の推進により事務経費全般の節減を図っているためである。今後も毎年度5%を削減目標とするなど具体的な目標を定め、節減を図る。

扶助費：扶助費に係る経常収支比率が高くなっているのは児童福祉経費や対象者拡充による医療給付費が増加傾向にあるためである。今後は、受益者負担の見直しなどを進め、財政を圧迫する上昇傾向に歯止めをかけるよう努める。

補助費等：補助費等に係る経常収支比率が急激に上昇したのは、広域連合への負担金や、下水道特別会計の企業会計への移行による基準内繰出が増加したためである。今後は、企業会計の建設事業計画の見直しや受益者負担の原則に基づく料金の改定などを検討し、繰出金の削減に努める。

公債費：近年の合併関連事業や過去の大型整備事業により、地方債の元利償還金は増加傾向にあり、公債費に係る経常収支比率は類似団体平均を8.2%上回っている。公債費のピークは平成24年度になると見込まれ、その前後数年は非常に厳しい財政運営となることが予想される。そのため、新規地方債の発行額を償還額以内とするなど抑制に努め、地方債残高の縮減を図る。

普通建設事業費：人口1人当たり決算額が大幅に減少したのは、H16年度から実施してきた合併関連の大型整備事業が一段落したためである。今後も引き続き普通建設事業費の抑制に努める。